「ALS」と「家族」にスポットを当てた映画が公開！

ALS患者と家族をとらえたドキュメンタリー

世界ALSデーの6月21日、映画『ギフト――僕がきみに残せるもの』のジャパンプレミア試写会が、なかのZERO小ホール（東京都中野区）で行なわれた。

本作は、筋萎縮性側索硬化症（ALS）を発症した元アメリカン・フットボールのスター選手スティーヴ・グリーソン氏が、息子へ贈るために記録したビデオ日記をもとに構成された記録映画だ。実はグリーソン氏は、2014年頃にSNSで話題となった「アイス・バケツ・チャレンジ」イベントの仕掛け人。そんな彼の前向きに活動を行なう日々の姿だけでなく、悩み、涙し、絶望する姿をも映し出した映画となっている。

トークセッションの様子

なお、ALSに関する知識がなくても大丈夫。本作のテーマは「家族」だからだ。とはいえ、専門職にとっても見応え十分。進行する病状に伴って深まる苦悩のあり様、病気とともに生活を送るなかで崩れ、再構築される夫婦・家族関係には、考えさせられるものがあるはずだ。

「私の家で起こったことと よく似ている」

この日、グリーソン氏の妻のミシェル・ヴァリスコ氏、非営利団体チーム・グリーソン代表で、ミシェル氏の父・ポール・ヴァリスコ氏、日本のALS患者らによるトークセッションも行なわれた。

本作の感想を尋ねられた患者の1人、橋本操さんは「医学部の教科書にしてほしいですね」と絶賛。また、同じくALSをもつ酒井ひとみさんは「（本作で描かれているものが）私の家で起こったことに似ている」と話し、ひとみさんの夫・健雄さんも「夫婦間のわだかまりに共感した」とコメントを寄せた。

「映画の前半は、自分たちを見ているようでつらかった」と吐露したのは武藤木綿子さん。夫・将胤さんがALSの診断を受けた直後の日々を思い出させたという。それでも、映画を通し、グリーソン夫婦の姿に勇気をもらったとも語った。

なお、将胤氏は、診断を受けてから一般社団法人「WITH ALS」を立ち上げ、ALSを始めとした難病患者、その家族のQOL向上に貢献するコンテンツの開発を行なうに至っている。この日、将胤氏はメガネブランドのJINSとコラボして開発した「JINS MEME」を紹介。眼球の動きを察知するメガネ、Blue-toothを接続させたスマートフォンを利用し、眼球の動きだけで身の回りのデバイスを動かすサービスを説明した。これにはポール氏も興味をもち、「アイウェアの開発も米国と一緒に行なえば、もっと早く世に広められるのでは」と述べた。

最後にミシェル氏が「この病気で大切なのは、周囲の理解を深めること。ぜひ周囲の人々に宣伝してください」とコメント。日本ALS協会会長・岡部宏生氏が「宣伝しまくります」と会場の笑いを誘い、締めくくった。

＊

今回のイベントは、日本ALS協会と「せりか基金」とのコラボレーションで行なわれたもの。「せりか基金」は、ALSの治療方法を見つけるための研究開発費を集めるための活動団体（運営：株式会社コルク）。基金のネーミングは、人気漫画『宇宙兄弟』（講談社）の作中に登場するキャラクター「伊藤せりか」にちなんでいる（父親をALSで亡くし、その疾患の治療法の確立をめざす医師で、宇宙飛行士でもある女性キャラクターで……と、詳細は漫画『宇宙兄弟』をチェック！）。なんと、映画『ギフト――僕がきみに残せるもの』の前売券は、せりか基金とのチャリティコラボ特別鑑賞券となっており、同券1枚（税込1500円）につき100円を「せりか基金」へ寄付できるしくみになっているとのことだ。

映画の公開は8月19日（土）より、ヒューマントラストシネマ有楽町ほか全国にて。ALS患者とその家族の物語にグッと踏み込んだ本作、ぜひご覧ください。

公式ウェブサイト：http://transformer.co.jp/m/gift/

配給：トランスフォーマー

全国順次ロードショー

劇場情報（一部）
●東京・ヒューマントラストシネマ有楽町
☎03-6259-8608
●東京・ヒューマントラストシネマ渋谷
☎03-5468-5551
●大阪・シネ・リーブル梅田
☎06-6440-5930
●兵庫・シネ・リーブル神戸
☎078-334-2126

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2017